

令和7年度新宿区子ども読書活動推進会議（令和8年3月4日開催） 会議録（要旨）

1 出席者

新宿区子ども読書活動推進会議委員（8名）

【座長】学識経験者：野口座長

【副座長】学識経験者：岡本副座長

【新宿区立幼稚園PTA連合会】久郷委員

【新宿区立中学校PTA協議会】山崎委員

【新宿区立図書館で活動する読み聞かせ団体】中丸委員

【区職員】菊地教育支援課長

【図書館職員】山本中央図書館長、関口資料係長

図書館事務局：橋都こども図書館長、こども図書館河原、神谷、新河

2 場所 中央図書館 4階会議室

3 議題

- (1) 令和7年度「図書館を使った調べる学習コンクール」・全国コンクールの実施結果について
- (2) 「第七次 新宿区子ども読書活動推進計画」の策定に向けたアンケート調査の実施について
- (3) その他

事務局 それでは、お時間になりましたので始めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。事務局の子ども図書館、神谷です。よろしくお願いいたします。初めに何点か事務的な確認をさせていただきます。最初に、この会議の公開に関するお願いです。この会議は録音させていただき、文字に起こしてホームページで公開させていただきます。ご了承くださいたくお願いいたします。続きまして、会議の成立の確認です。委員の方は全員で10名、本日ご出席の方は8名です。ご出席の人数が過半数を超えておりますので、この会議の設置要綱第4条に定める定足数を満たし、会議が成立することをご報告いたします。

続きまして、配布資料の確認です。まず、令和7年度第3回新宿区子ども読書活動推進会議の次第が8枚、資料1、令和7年度「図書館を使った調べる学習コンクール」・全国コンクールの実施結果についてが1枚、別紙、令和7年度「図書館を使った調べる学習コンクール」・全国コンクールの実施結果についての名簿が1部、資料2の1、「第七次新宿区子ども読書活動推進計画の策定に向けたアンケート調査の実施について」が1枚、資料2の2、「第七次新宿区子ども読書活動推進計画の策定スケジュール」（案）が1枚、こちら事前にお送りしたものの差し替えがございますので、机の上に置かせていただいたものに差し替えをお願いいたします。

資料2の3、「新宿区子ども読書活動推進計画アンケート」（未就学児用）のアンケートが1部、資料2の4、（小学生用）のアンケートが1部、資料2の5、（中学生用）のアンケートが1部、資料2の6、（高校生用）のアンケートが1部、そして、本日あらたに机の上に置かせていただいております別添1「第五次東京都子ども読書活動推進計画（案）」についてが1枚。別添2、右上に参考資料と書いてある、「第五次東京都子ども読書活動推進計画（案）」についてが1枚。配布資料は以上になります。資料の不足等ございましたら、お知らせください。では、令和7年度第3回新宿区子ども読書活動推進会議を開催いたします。初めに、中央図書館長からご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

中央図書館長 中央図書館長の山本です。本日はどうもありがとうございます。今回、第七次の計画をすることになりました。七次の計画につきましては、10年度からの計画を作る予定でございます。その際に、9年度に計画を作っていくのですが、8年度中にアンケートをとり、そのアンケートの結果に基づいて計画を作りますので、今回は案を示させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

今、小学校や中学校等で学級閉鎖がとて多いという話を聞いております。気温の上がり下がりも激しいですし、花粉もかなり飛んできてますので、体調のほうには皆様ご留意いただければと思います。簡単ですが、ご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございました。では、ここからは野口座長に進行をお願いいたします。

座長 皆さま、おはようございます。では、本日の今年度の第3回の会議になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。では、お手元の次第に沿って進めていきたいと思いますが、3の議題の(1)です。令和7年度、図書館を使った調べる学習コンクールの全国コンクールの実施経過について、こちら、まず事務局からご説明をお願いいたします。

事務局 こども図書館の橋都と申します。よろしくお願いいたします。では、資料1をご覧くださいませでしょうか。令和7年度「図書館を使った調べる学習コンクール」・全国コンクールの実施結果についてになります。令和7年度、新宿区立図書館を使った調べる学習コンクールにおいて、表彰された優秀な作品を公益財団法人図書館振興財団主催、第29回図書館を使った調べる学習コンクールに出展いたしました。下記のとおり、受賞作品が決定したので報告いたします。1、第29回全国コンクール結果です。新宿区は、入賞が3点、優良賞1点、奨励賞7点、佳作19点で、30点が結果として出ております。

2番です。全国コンクール表彰作品の推移を表しております。令和7年度につきましては、文部科学大臣賞1点、2030生物多様性枠組実現日本会議賞1点、優秀賞といたしまして、活字文化推進会議賞1点、となっております。今後の予定といたしましては、3月7日に全国コンクールの入賞作品賞表彰式が開催されます。3月の下旬には、新宿区の全国コンクール受賞作品の作品集を区立学校、区立図書館のほうに配付する予定でおります。

次に、別紙をご覧くださいませ。受賞した方の名前と作品名を記載しております。

座長 ありがとうございます。全国コンクールの審査結果を報告をいただきましたけれども、文部科学大臣賞を受賞されたということで、大変、素晴らしいなと思います。別紙にその作品名等が整理されておりますが、どういう作品なのかを読みたいですですね。例年、伺ってますけれども、図書館で閲覧はできるのでしょうか。

事務局 はい。

座長 ぜひ、委員の皆さまも手に取って見ていただけたらと、私も見てみたいなと思いました。この件に関しまして、皆さまからご意見やご質問等ございますか。毎年、文部科学大臣賞が出ているってすごいですよね。全国から応募される作品の中で、新宿区からは必ず文部科学大臣賞が出てるというのは、すごく児童生徒の調べる力が評価されてる証かなと思いますし、また、それに対して新宿区の図書館が果たしている役割は非常に大きいというのが伝わってくる実績ではないかと思いますね。では、館長お願いします。

中央図書館長 補足となりますが、一番最後の所に、注意書きということで書かせていただいているのですが、1番からそれぞれ順番、振ってあるのですが、これはあくまでも通し番号

ですので、順位とは関係ございません。例えば、2 ページ目が奨励賞になっているのですが、これが 5、6、7、8、9、10、11 とあります。これはあくまでも通し番号ということでご理解いただければと思います。1 番裏面の注意の 2 番目なんですけれども、11 番と 28 番の方は匿名となっております。こちらにつきましては、ホームページ等に記載をしないでくださいという方でしたので、お名前の所は匿名とさせていただいておりますので、ご了承ください。私からの補足は以上でございます。

座長 ありがとうございます。これは、あくまでもホームページなどで名前を出さないでほしいということですよ。だから、審査をされるは当然、実名で審査を受けているということですよ。分かりました。皆様から何かございますか。よろしいですか。ぜひ、毎年 1 人ずつ文部科学大臣賞出るところ、これを見るとぜひ来年は 2 人と、思ってしまうすけれどもね。でも、また来年度もきっと素晴らしい作品を子どもたちが作ってくれるだろうと期待をしておりますし、また、図書館としてのご支援も、ぜひ、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

では、続きまして、議題の(2)です。第七次新宿区子ども読書活動推進計画の策定に向けたアンケート調査の実施についてです。こちら資料が複数ありますが、これに基づきまして、まずは事務局からご説明をお願いいたします。

事務局 こども読書館の河原と申します。それではまず、資料の 2 の 1 をご覧ください。第七次新宿区子ども読書活動推進計画の策定に向けたアンケート調査の実施についてということで、目的は、令和 9 年度に策定する第七次新宿区子ども読書活動推進計画、こちら令和 10 年度から令和 14 年度までの 5 カ年を予定しておりますけれども、この参考資料とするために、令和 8 年度に区民の図書館利用や読書に関する実態、ニーズ等を把握するための調査となっております。

調査の規模は、こちらの表をご覧くださいなのですが、4 種類ございまして、未就学児向け調査、新宿区に在住する令和 8 年 4 月 1 日現在 0 歳から 5 歳までの本人、回答は調査対象の保護者の方に依頼をしますが、およそ 1200 人。次に小学生向けとしまして、新宿区立小学校に在籍する 2 年生および 5 年生の本人、約 3500 人。次に中学生向け調査としまして、新宿区立中学校に在籍する 2 年生の本人、約 1000 人。

次に、高校生等向け調査としまして、15 歳から 17 歳までのご本人、約 1000 人を予定しております。調査期間につきましては、令和 8 年 10 月から 11 月までおよそ 20 日間を予定しております。

資料の 2 の 2、本日、配布した差替え版も併せてご覧ください。こちらは、令和 8 年度の調査と、また令和 9 年度の計画策定と推進会議のスケジュール案です。推進会議の日程は、この四角の中の 9 月、12 月、3 月と仮にしておりますが、前後する可能性もございますの

で、ご了承ください。本日この後、アンケート案は実際に見ていただきまして、皆さまにいただいたご意見を参考にさせていただきながら、関係各課や小中学校長による第七次新宿区子ども読書活動推進計画策定委員会および作業部会にてアンケート調査案を作成してまいります。令和 8 年度第 1 回の推進会議にて、最終的な調査内容についてご確認いただきまして、10 月から 11 月にかけて調査を行います。その後、第 2 回の推進会議で調査結果の概要をご報告させていただいた後、3 月を予定しておりますけれども、第 3 回の推進会議にて結果報告の予定です。令和 9 年度、調査結果等を踏まえて、第 7 次の計画策定という大まかな流れになります。

では、資料 2 の 1 にお戻りください。調査方法としましては、こちら 2 の調査規模の表がございますけれども、1 と 4 の調査は郵送により発送し、郵送もしくはウェブにより回収します。2 と 3、小学生、中学生向けの調査はウェブ回答方式のみとし、学校経由で配布し回収する予定です。いずれの調査も、回答は無記名といたします。周知方法につきましては、区の広報および区のホームページにより周知する予定です。調査結果につきましては、調査報告書および調査集計結果報告書を、令和 9 年 3 月下旬に発行予定です。

では、前回の調査からの主な変更につきましては、実際のアンケート案に沿ってご確認いただきます。資料 2 の 3 をご覧ください。こちらは、前回、令和 5 年度に実施したアンケートから変更した箇所を赤字にしております。この資料 2 の 3 が、未就学児向けの調査です。めくっていただきまして、2 ページ目、問 3、見え消しにしておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響に関する設問は、今回、削除しております。その下、ここには反映していませんが、あなたの家にはどれくらいお子さまの絵本や本がありますかという設問につきましては、選択肢 8 の 101 から 200 冊以降は、例えば 101 冊以上とまとめることも、今、検討しております。

3 ページ目の問 8 の下です。問 10、あなたがお子さまが読んだ絵本や本のタイトルを記録していますかという質問ですが、今のところこども図書館として読書手帳のようなものを作成しておりませんで、こちら削除しております。次に 4 ページ目をご覧ください。問 12、あなたは新宿電子図書館を利用したことがありますか。また、5 ページ目、問 12 の 1、しんじゅく電子図書館を利用したことがない理由は何ですかということで、令和 7 年 1 月に開始しましたしんじゅく電子図書館の利用状況を把握するために、今回、追加をしております。最後に、6 ページ目をご覧ください。問 15、新宿区立図書館の子どもの読書活動に関わる取り組みに関して、ご意見ご要望などがありましたらご自由にご記入ください。として、自由記述欄を追加しております。

資料 2 の 4 の小学生向けから、資料 2 の 6 の高校生世代向けのアンケート案につきましても、今、申し上げたものとおおよそ同様の内容の変更を加えております。細かな表現など、今後、検討して直していく予定ではございますが、ぜひ、この場でご意見、ご質問等ございましたらお願いしたいと思います。以上です。

座長 説明ありがとうございました。来年度になってから調査を実施する予定ということになっておりますけれども、資料の 2 の 3 以降をご覧くださいまして、委員の皆さまからのご意見をいただければと思います。まだ、お時間ありますので、できましたら皆さまお一人ずつご意見頂戴できるとありがたいなと思います。では、順番に中丸委員からお願いできますか。お願いいたします。

委員 中央図書館読み聞かせ会の会長をさせていただいております、中丸と申します。よろしくをお願いいたします。資料を拝見させていただきまして、気付いたところを述べさせていただきますと思います。資料 2 の 3 の、その 6 の、2 の 3、2 の 4 の、問 6 の 1 についてなのですが、お子さまが好きなジャンルについて。1 番の虫や動物の読み物や絵本というところなのですが、これにつきまして、虫、動物の他に魚とかもあってもいいかなということをおもいました。これは、分解法等に基づいて決められているのでしょうか。

座長 まとめてご意見いただいた後、事務局からお返事いただきますかね。他のところも含めて、お願いいたします。

委員 資料 2 の 3 の問 10 の 1 とか問 11、他の資料にも載ってたかと思うのですけれども、これも自分の興味の範囲なのですけれども、紙の本と電子書籍どちらのほうが読みやすそうか、読みやすい、読ませやすいと感じるジャンルについて、こちらの自分が回答ぜひ知りたいというようなことを思った次第です。あとは、先ほどお話の中にもあったかもしれないのですが、同じく資料 2 の 3 の問 10、他の資料にも載ってたかと思うのですけれども、これは今回、削除となった項目で、読んだ本や絵本のタイトルを記録していますかというところは、これについての削除となった理由が知りたいと思ったのですが、こちら手帳などを、今、発行していないからということですのでよろしいでしょうか。

次は、資料 2 の 4、2 の 5 となっておりますが、こちらは、2 の 4 の問 13、2 の 5 は問 12。子ども読書リーダー講座について、詳しく知ってみたいということをおもいました。あとは、資料 2 の 4 の問 15 番について。こちらは、他の資料と期待というか、てにをはとか文章が少し違うかなと感じたところです。これだと、区立図書館や子ども読書活動に関わると書いてあるのですが、他の資料ですと、図書館「の」、「や」、の所が、「の」となっているということで、この違いは何か理由があるのか、それとも、ただ、偶然、違っただけなのかというところを疑問に思いました。

今度は、資料 2 の 5、2 の 6 いきまして、問 9 の 1。こちら、あなたは紙の本と電子書籍、どちらのほうが読みやすそうですかとなっているのですが、読みやすそうより読みやすいですかのほうが分かりやすいかなと思いました。あとは、資料 2 の 3 から 2 の 6 まで全部ある質問なのですけれども、問 11 の 1、しんじゅく電子図書館を利用したことがない理由は何ですかという質問なのですけれども、こちらの回答で、今後、利用してみたいって

うことがあるんですけども、これが理由としては、ちょっと合わないかなというところを思った次第です。

あとは、資料2の5、2の6について、問14番。新宿区立図書館のイベントに参加するなら、どんなイベントがいいですかという質問で、2番の図書購入のワークショップというのがあるんですけど、これも自分が購入ワークショップというのが、内容の想像がつかなくて、詳しく知ってみたいということを思いました。

座長 分かりました。丁寧にご検討いただき、ありがとうございます。では、今、ご質問もありましたので、事務局からお願いできますか。

事務局 まず問い、資料2の3の問6の1ですね。魚もあってもよいのではということで、確かに今、見た範囲、この現在調査の際には、他のアンケート調査など参考にさせていただいたかと思われるのですけれども、ぜひ、選択肢についてはそういったところの追加も含めて検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。その次に、同じページの問10、絵本や本のタイトルを記録していますかということで、読書手帳のような取り組み自体は、今、実際、地域館のほうではしている所もあったりはするようなののですけれども、こども図書館ではそういったものを実施していないということで。経年変化で記録していますかという質問を残すかどうかについては、どうしようかということもあったのですけれども、もし、ぜひ、残したほうがということであれば、あらためて。理由としては、今、このような取り組みをこども図書館でしていないのでということで削除させていただいております。

座長 どうですか、中丸委員、残したほうがいいという趣旨でのご質問なのか、いかがですか。

委員 ぜひというところまではないのですけれども、自分が結構、読書をしたときに、自分が読んだ本をノートとかに付けておくのがいいだったもので、そういった楽しみもあってもいいんじゃないかというところで。必ずって感じではないですけど、あってもいいかなというところを思った次第です。ありがとうございます。

座長 事務局でご検討いただければと思います。

事務局 ありがとうございます。その次に、4ページ目は、問10の1。紙の本と電子書籍どちらのほうを読みやすいですか。こちら、他のアンケートも含めまして、統一するのを考えています。ありがとうございます。先に、資料2の4の問い、5ページ目、問13の子ども読書リーダー講座、どのような取り組みなのでしょうかということ。子ども読書リー

ダー講座というものが、新宿区立図書館全館で取り組んでいるものなんですけども、どの館でもいいので館ごとに子ども読書リーダーと銘打って、例えば図書館員体験、本の修理であったりとか、レファレンスをやってみようというイベントに参加していただくものになっております。参加の記録としてスタンプを押しているんですけども、それを九つ集めると読書リーダーに認定されまして、認定された後は、その子どもが希望する図書館で、例えば図書館の職員と話し合っただけで展示をしてみたいということであれば、自分でアイデアを出してもらって展示をしてもらうというような、より、ステップアップしたような取り組みもしていただけるような内容になっております。

委員 ありがとうございます。

事務局 その次の6ページ目ですね。問15、資料2の4だけ他の調査と違うということで。こちらが、統一しているつもりで直し切れなかったものになりますので、予定としては、他の例えば資料2の5の問15、新宿区立図書館の子どもの読書活動に関わる取り組みに関してご意見ご要望などがありましたらご自由にご記入くださいというふうに合わせるつもりではいるのですけれども、例えば、資料2の4、小学生向け、小学2年生、5年生対象になりますので、例えば、あえて表現を分かりやすく変えたほうがいいんじゃないとか、そういったところも含めてもしご意見というか、いい案がありましたらいただければと思っております。

次に、資料2の5の問11の1ですね。しんじゅく電子図書館を利用したことがない理由は何ですかの選択肢3番。今後、利用してみたいということで、確かに利用としては合わないかもしれないという。こちらは、既に電子書籍のサービスを実施している他区の、他の区のアンケートなども参考にさせていただいたものではあるんですけども、どうするか、変更ということでもいいですかね。ありがとうございます。次に、同じ資料2の5の5ページの間14ですね。図書購入のワークショップは恐らくなんですけれども、選書の際に一緒に参加してもらって、例えば中学生の方からの視点とか、そういったものを一緒に考えていくとか、そういったことかと思われま。

委員 ありがとうございます。

中央図書館長 図書購入のワークショップなんですけれども、こども図書館の子どもの読書リーダーではやってないのですが、地域館のほうで一緒に本屋さんに行って本を選ぶというようなことをやってる図書館があるんですよね。ですから、そういったことを今回このワークショップということで、前回、記載したものだというふうには理解しておりますので、その辺はもうちょっと分かりやすく書くとか、何か工夫はしたほうがいいかなとは思っておりますので、検討させてください。

委員 どうもありがとうございます。

座長 ありがとうございます。いわゆる選書ツアーみたいなものですね。なるほど、分かりました。ありがとうございました。では、続きまして、山崎委員いかがでしょうか。

委員 新宿区立中学校 PTA 協議会の山崎です。よろしくお願いします。私もこれはアンケート見させていただいて、中丸委員の読書手帳の話あったと思うのですが、区では配ってないということだったと思うのですけど、これ、あるとすごくいいんじゃないかなと思って。簡単なシールとかを例えば手帳書いて図書館の人に見せるとそのシール貼ってもらえるみたいな、コレクション的な要素があると、子どもって小さい子たちですけど、喜んで本読んで、シールまたもらいに行こうみたいな感じで親も声掛けしやすいのかなっていうふうには思いました。そんなにきちっとしたものでなくてもいいと思うのですが、シール貼りたくなるとか、何かがあったらいいのかなというの思いました。

全体の余暇時間に何してるのかっていうのを把握するみたいな質問はどうかなっていうふうに思いました。もし的外れだったら申し訳ないんですけど、本読んでる子ってどの時間に読んでるとか、夜、読んでるのかとか、夜、寝る前に読んでるのかとか、高校生とかだと通学の途中に読んでるのかとかっていう、そういうのが時間も把握できることによって、1階のエレベーターの前の所で、こういう本みたいな感じで紹介してると思うんですけど、例えば通学中にちょうどいいみたいなショートみたいなものを例えば紹介するとか、そのような紹介の仕方ができるのかなと。あと、家でもし夕食後に読んでるのであれば、ハードカバーの本でも大丈夫だと思うし、学校に持ってくるのは重たいけどみたいなものもあるかなと思ったので、いつ読んでる人は何をいつ読んでるのかって。逆に読んでない人は、その時間、何してるのかっていうのを。多分 YouTube 見てるとか、テレビ見てるとか、スマホ見てるとかだと思うんですけど、それに変わる隙間があるかなみたいなのをもし見られたらいいのかなと思いました。以上です。

座長 ありがとうございます。ただいまの山崎委員からのご意見については、よろしいですね、それで。

事務局 参考にさせていただきます。

座長 ありがとうございます。では、続きまして、久郷委員いかがでしょうか。

委員 新宿区立幼稚園 PTA 連合会長させていただいてます、久郷です。お願いします。私としては、小学生向けの資料 2 の 4 のアンケートの、あなたは本を読むことが好きですかの

質問で、例えば、嫌いとかどちらかといえば嫌いって質問した子に向けて、なぜ、本を読むのが嫌いなのかなっていうのをに入れてくれると、結構、小学生って正直に理由を話してくれるので。なぜ、本の利用数が減っているかのヒントにもなる項目が聞けたりもするかなとか思ったりしました。未就学児のこの2の3の資料の、図書館の利用、問9に関しても、利用してないということも、なぜっていう理由が聞けると、いろいろ興味深い返答がもしかしたらいただけるようになったのかなと思いました。もし、アンケートに余裕があればということで、よかったですと思います。失礼します。

座長 どうもありがとうございました。ただいまの点もよろしいですかね。ぜひ、ご検討をお願いいたします。では、菊地委員いかがでしょうか。

教育支援課長 アンケートに入る前の、資料2の1の所で教えてください。資料2の1の4番の(2)、(3)の調査は、ウェブ回答のみとして学校経由で配布し回収するとなっているのですが、これは、子どもたちは何を使ってウェブで回答するのかっていうのが、1人1台端末を考えているのかっていうのを教えてください。あと、今、ウェブ回答というのが、区でいろいろな施策の調査でかなり広がっています。途中回答で終わってしまったりっていうところで、なかなかきちんとアンケートが採れなかったという所が以前、他の調査でありました。今、かなり、区民意識調査もウェブで始めているので、その工夫を区政情報課等先に実施した所に確認すると、結局、途中回答になってしまうと、N値が途中までは100だったのに、途中から極端な話50になってしまうとかっていう形で変わってきちゃったりしているので、その工夫を確認されるといいかなと思いました。

それから、アンケートの中身にまいりますけれども、まず、2番の読書活動の所で、お子さまはこの1カ月って書いてあるのを、大体、直近1カ月って言葉を結構、他の調査では使っているかなと思いました。それから、資料2の3の所の3ページの間6の1なんですけれども、間6の1です。いろんなジャンルが書いてあって、さっき魚ってお話がありましたけれど、11番の所は宇宙、隕石だと結構、難しいので、星とか星座とか入れていただけると、子どもも分かりやすいかなと思いました。

それから先ほど、他の中丸委員からお話があった4ページ目の間10の所、読みやすそうですかっていう問い、これ、多分、聞きたいことは、お子さまが紙の本と電子書籍の本、どちらのほうが読みやすいと思いますかってことを聞きたいのかなと思ったので、何を聞きたいかに合わせて日本語を直すといいかなと思いました。同じように5ページ目の、今後、利用してみたいっていうところ、さっきあったと思います。間12の1、これは多分、今後、利用してみたいがまだ利用していないっていうのが、多分、選択肢として使いたいけれども使い方が分からないっていう人は2番で、使いたいけどまだ使う機会がなかったっていうところを聞きたいのであれば、そういう聞き方に選択肢を直せばいいかなと思ったところです。

あと、1点だけ、資料2の4で、2ページ目の問3です。子ども向けの本っていう言い方が非常に私は引っ掛かっていて。そのご家庭、そのご家庭、子ども向けの本って置いてるわけじゃないと思うんですよ。だからすごい極端な話すると、小学校5年生でも、私が見て衝撃を受けたのは、宮部みゆきの『火車』の文庫本、読んでたりするんですよ。なので、幼年童話、読んでる子もいれば、だから、ここの聞き方がすごく引っ掛かったところです。以上です。

座長 ありがとうございます。では、いかがですか。ただいまの菊地委員からのご意見、受けて、何かございますか。

事務局 ありがとうございます。やっぱり私どもの中ではなかなかなかった視点とかもいろいろいただきまして、ぜひ、参考にさせていただいてというところで検討してまいります。ありがとうございます。

座長 では、山本館長、いかがですか。

中央図書館長 まず、今、菊地委員のほうから、最初に質問があったウェブ回答の件なんですけれども、現行、考えてるのは、子どもたちに配っているタブレット端末で、QRコードを配って、それを読んでやってもらおうかなというふうには思ってます。今回、コンサルタントの委託契約をしようと思ってますので、細かいところについてはそちらのノウハウもあると思いますので、そういったところと調整しながら、最終的なやり方は決めていこうという段階でございます。あと、先ほどでいうと、文言をこういうほうがいいんじゃないかというようなご意見もありましたけども、そちらの今度、契約する会社のほうで、もうちょっとこういう聞き方のほうがいいんじゃないのっていうアドバイスもいただけるかもしれませんので、そういったところはそういったアドバイスを吸収しながら、なるべく伝わりやすいように質問は作っていかなきゃいけないかなと思ってますので、一定程度またできた時点で、来年度になりますけれども、こんな感じでいうのは、あらためてご報告させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。私からは、以上でございます。

座長 ありがとうございます。文科省なんかも、子どもの読書の調査研究、業者に委託して実はウェブ調査もやってたりもするので、多分そういうのに長けてる業者さんって何社かあるんだと思うんですよ。そういうところとうまく契約ができるといいかもしれないなと思いました。では、続きまして、関口委員いかがでしょうか。

資料係長 資料係長の関口です。今回のアンケートで、共通している皆さんからご意見いろいろ出ている記録の件なんですけれども。問10の関係なんですけど、図書館のサイトを見て

いただくと、図書館で借りた今まで読んだ本というのが、今回のシステム更新で記録できるようになりました。最大でお一人 1000 件までというふうに記録できるようになりまして。そのご案内のニュアンスを含めてこの説明があれば、例えば、しているしていない、図書館のマイページでは、借りた本の記録ができますのでご利用くださいみたいな、何かご紹介も含めた説明にできたらなと、ページに余裕があればなんですけれども。そうすると、じゃあ図書館で借りたら自分の記録、シールのすごい小さなお子さんもすごいいいなと思うんですけど、もうちょっと大きいお子さんたちは、中高生の方とかは、じゃあ記録しなくてもここで借りれば履歴が分かるんだなっていうのを分かっていただけの機会かと思います。

それが 1 点と、あとは、未就学児を例にすると、問 12 の 1 の、新宿電子図書館を利用したことがない理由は何ですかということで、一般の大人向けにアンケートを実施しております。また、今年度も 3 月の中旬から電子書籍についてのアンケートを実施する予定なんですけど、その中に、目が疲れてしまうからっていう項目を入れてありまして、もしかしたら小さいお子さんに見せたくないって思うご家庭の方もいらっしゃるかなというのがちょっとありまして。必ず入れてほしいということではないんですけど、参考にさせていただけたらなと思います。

あと、もう一点だけ。資料 2 の 3 の 6 に戻るのですが、お子さまが好きなジャンルを選んでくださいというふうになっていて、ジャンルを選ぶかなと思うんですけど。読み物や絵本というふうに途中までは書いてあるんですけど、これ、絵本か読み物かもこだわったほうがいいのか、ジャンルだけに整理しちゃうほうがいいのか、その辺はまた他の自治体の実施状況などを見ながらご検討いただければなと思います。全て読み物や絵本、どちらでも構わないというニュアンスかなとは思いますが、文字数とかスペースの関係で全部入れられないこともあるので。何かちょっとアンケートをお願いする、その専門の方にもご相談していただいてもいいかなと思います。私からは以上です。

座長 関口委員、ありがとうございます。今のお話もご検討いただくということでよろしいですか。ありがとうございます。では、岡本副座長いかがでしょうか。

副座長 日本児童図書出版協会の岡本でございます。私からも感想的なお話になってしまいますが、まずはこういったアンケートは、引き続き、読書推進活動のほうに、よりよく活動するために生かしていただければというふうに切に願っております。私からは二つほど感じたところをお話しさせていただきますと、一つは、読書活動についてという所で、このアンケート全般がマンガ雑誌、教科書、含まないというところなんですけど、その前の段階として、そもそも含むとどこまで読んでものかっていうのを知りたいということもありますし、今、本当にマンガ雑誌も手軽に手に入らないといえますか、というような状況もありますので、以前の状況と比べますと、そもそも雑誌もマンガも読んでもお子さん自体が、紙の本に以前よりは興味が高いお子さんじゃないかなというふうには思っております。脳科学

的にも、電子ではなくて紙の本に触れているといい、というような話もよく聞く機会がございますし、そもそもそのマンガ雑誌、教科書を含んだ段階での、読んでる読んでないみたいなところも知りたいなというふうに感じた次第です。

あと、新宿区のほうでも積極的にお取り組みいただいてるかと思うんですが、なかなか取り組みとしては長年されてる取り組みで、朝読ですね、地域によってはちょっと形骸化してみたいなことも時々、耳にしております。どこにということではないんですが、何かこの質問の中で朝読の項目を入れていただけると、子どもだけじゃなくて大人のほうも意識付けになるのかなと思いますので、ぜひ、考えていただきたいなというふうに思っております。簡単ですが、以上になります。

座長 岡本副座長、ありがとうございました。事務局よろしいですかね、検討いただくということで。ありがとうございました。私からも何点か質問を含めてということになるのですが、けれども、今も岡本副座長から朝読の話があったんですけれども、この資料2の4、5、6ですね、小中高校生向けのアンケートっていうところに関してなんですが、例えば、資料2の4って3ページご覧いただくと、大きな網掛けの付いてる所の3が、あなたの本の選び方などについて、4が新宿区立図書館の利用状況についてになってるのですが、学校図書館の利用状況。学校の図書館というのは、子どもたちにとっては当然、一番身近な存在ですので、もうちょっとそこを明確に聞くような設定があってもいいんじゃないかと思います。その上で朝読がなかなか難しいのは、これ教職員に聞くんだったら、朝読は実施してますかで聞きやすいんですけど、子どもたちは、その通ってる学校でやってれば当然やってるって言うでしょうし、そうじゃなければやってないってなってしまうので、むしろ学校図書館どうなのっていうところを聞いてあげたほうがいいのかなと思いました。本を借りる場所がどこかというところで、手に入れるところで学校の図書館というところは、選択肢としては聞いてはいるわけですけども。

それから、たびたび皆さん委員の方からもご意見がありました、これは資料2の4でいうところの、問6の1のジャンルですよね。このジャンルは、何がベースなのかなって、あまり見たことないジャンル分けだなっていうのが思ったところで。確かに、子どもたちにLDCで聞いてもそれは難しいなと思うんですけど、なかなかこの分け方って難しいですよ。例えば、1の虫や動物の本も、これ物語だったら5に入るんじゃないかとかありますよね、しかもお話の本は物語じゃないのかとか、ちょっと答えにくくないかなって。でも、これまでもこれでやってたってことですよね。

事務局 前はそうですね。

座長 ですよ。その前はどうかだったんですか。

中央図書館長 その前は、多分やってないです。

座長 やってない？ そうなんですか。なかなかこれ、結構、迷うんじゃないかな、子どもたちは。複数でいいっていえば、でも、そうすると全部、丸付けちゃうっていう形になるのか。あと、結構、恣意的な感じですよ。このロボット、恐竜とかいうと、確かに男の子そういうの好きかなとか思うんだけど、この出てるジャンルが網羅されてるわけでもないし、ダブリもあるし。例えば、男の子だったらそうかなって思うところはあるけど、女の子だったら、お菓子とか料理とか。

事務局 ありますね、手芸とか。

座長 そういうのもあるでしょうし。何となく偏りがあるような感じもしますしというところで。ちなみに、岡本副座長、これ児童書出版業界だと、ジャンルってあるんですよ。特にそういうの決めてない？

副座長 児童出版業界が決めて分けてるものでもないですし。

座長 ない。各出版社で。

副座長 それぞれなので、微妙な節があったり。

座長 そういうことなんですね。ここが一番、私、悩ましいなと思いながら拝見してたところで。でも、明確にこれがいいって言えないところがあるのですけれど。でも、ここは、他の自治体さんも悩んでるのかもしれないですけど、聞くのはすごくいいポイントだと私は思います。ただ、提示するジャンルがこれでいいのかどうか、すごくもやもやしてしまってるというのが正直なところです。なので、今、これがいいんじゃないですかっていうご提案がすぐできないのですけれど、ぜひ、ここはご検討いただいたほうが良いと思います。これももちろん、資料2から6通してっていうことなんですから、思ったところですね。

副座長 参考になる資料がもしありましたら。

座長 ぜひ。出版のほうのプロですから、ぜひ、ご提供いただけると。お願いいたします。あと、全体のその枠組みのところで、今回、机上でご配布いただいた都のほうの計画が、今、検討中っていうお話は特になく資料配布だけっていうことでよろしいですかね。今、東京都のこの第5次計画の委員を、私、勤めていまして、新しい動きだなというところでご紹介をしますと、この東京都の計画の案、これ、今、パブコメ中なんですけれども、ご覧いただく

と、子ども読書活動推進計画という名前なのですが、案、開いていただくと、1の本計画の位置付けのところですよ。読書バリアフリー法に基づく都の読書バリアフリー計画にも位置付けていますということが書かれていまして。ちょうどこの読書バリアフリー法できて7年目に当たりまして、東京都としても、こういった形で読書バリアフリーの要素を計画に盛り込む形を今回、取ろうということにしています。なので、新宿区としましても、もし可能であればこれはぜひ、ご検討いただきたいという意味での発言なんですけれども、第七次の計画からはそういった読書バリアフリー計画の要素も盛り込んでいくってというような形も、一つの方向性としてはあるのかなと。東京都もぜひ、都内の区市町村でそういった形も取ってほしいということでの、多分、今回、計画の提示なのかなとも思いますので、ぜひ、その点をご検討いただきたいなというところが1点。

それからもう一つ、もし、そういった読書バリアフリーの要素をこの計画の中で入れ込んでいくという方向に決まるようでしたら、ぜひ、区立の養護学校の、子どもたち、保護者ないし教職員の意見っていうのを、ぜひ聴取していただきたいなということですね。これは、方向性がどうなるかによると思うんですけれども、もし、可能であれば、その辺りのご検討をお願いできればなというふうに思います。私からは以上です。

教育支援課長 ちょっと、補足があるんですけど。

座長 では、お願いいたします。菊地委員、お願いします。

教育支援課長 今、座長、副座長から朝の読書活動のお話が出ました。新宿区立小中学校は、全校で実施しています。ですので、朝の読書活動という報告書も出してるんですけど、逆に言うと、小学校、中学校に、区立小中学校に在籍してる子に悉皆で聞けば、必ず、読んだ冊数はゼロにはならないんです。

座長 ああ、そういうこと。

教育支援課長 ですので、私どもの所管課で聞くときには、朝の読書時間以外に何冊、読みましたかっていう聞き方はしてるんですけど、これが図書館全体なのでこういう聞き方なのかなと思って見ていたところです。そういったところ踏まえると、先ほど2の4の所で、学校図書館を入れたらどうかというところが、3ページ目の問7の所でございましたが、朝の読書活動用に、区立図書館から団体貸し出しをさせていただいて、クラスの中に本を何冊も並べたりはしています。子どもたちそこからも選んだりするので、それを何っていう言い方をするのかっていうのは、クラスごとに多分、違ったりするからです。

座長 学級文庫という言い方でもない？

教育支援課長 はい。私もクラス文庫なのかなと思ったり、クラスの中には、そういったものを、ご自宅で読みたい本、持ってくる子もいればそうじゃない子もいるので、短い毎日10分とかっていう時間なので、始めるよって言ったらすぐ読めたほうがいいので、そういったものを後ろのロッカーの上に用意してたりはするので、それを選択肢に入れるのもいいかなと思って伺っていました。

座長 なるほど、確かに。そうですね。なんていうのかっていうのはなかなか言葉が学校によって、あるいはクラスによってばらついてると、答える側がイメージ、子どものほうがそれだと分からないと困っちゃったりしますのでね。複数、言葉があるようだったら併記してもいいですよ。クラス文庫とか学級文庫とか。ありがとうございました。ということで、皆さまからのご意見、伺いましたが、何か事務局からございますか。

事務局 先ほど読書バリアフリーの計画についても、座長からご意見をいただいたかと思うんですけども。新宿区の障害者計画、障害福祉計画というのもありまして、障害者計画の中に図書館の取り組み、バリアフリーも含めまして盛り込まれておりますので、位置付けについてはそういったところとも調整をしながら、考えていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

座長 ありがとうございます。東京都のほうも、大人の部分は福祉の計画に実はなっていて、子どもの計画は子ども読書と抱き合わせるっていう二段構えになってるんですよ。そういうのも一つの形かなと思いますので、ご研究いただければというふうに思います。他に皆さんからこのアンケートについてはよろしいですか。大体ご意見いただけて、あとは事務局のほうでご検討いただければというふうに思います。

では、続きまして、その他になるかと思いますが、その他、何かございますか。事務局からは。

事務局 先ほど、野口先生に触れていただいたので、東京都の参考資料は、説明のほうは割愛させていただきます。お目通しいただきまして、また何かご意見等ございましたら、事務局までいただければ幸いです。ありがとうございます。

座長 ありがとうございました。次回については、先ほどの資料2の2で、来年度につきましては、9月頃第1回を予定しているということが記載ありましたので、また近くなりましたら、ご連絡いただくことになるかなと思います。では、その他ということで、何か委員の皆さまから情報をこの場で共有したいこととか、何かございますか。では、これをもちまして、議題は全て終了ということになりますので、第3回の新宿区子ども読書活動推進会議

は終了したいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(了)